

12月29日

## 水稲部会 生産費確保を要望

2026年産米を巡り、水稲部会は生産費を下回らない価格として主要品種の概算金を、60 $\mu$ 2万円水準とするよう常勤役員に要望しました。生産費が高止まりする中、先行きを見通せる価格提示により地域の水稲生産の維持・発展につなげたい考えです。

太田英樹部会長ら部会役員3人が本店を訪れ、山本康樹組合長らに要望しました。山本組合長は、生産者の声を受け止め、今後検討していく考えを示しました。

部会側は、26年産米は需要緩和により米価下落が見込まれていると指摘。生産者が安心して作付けし、資金繰りを立てやすくするため、春先の早い段階で概算金を示すように求めました。また、販売実績に応じた追加払いの充実が意欲向上と経営安定につながるのと訴えました。



常勤役員に要望を伝える  
太田部会長（右から2人目）ら

1月13日

## 最新営農技術を共有

つがる市のハーモニー未来館において「西北地域米づくり新時代フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、県西北農林水産事務所と西北地域を管内にもつJAが共催し、これからの米づくりに役立つ最新の営農技術について知識を深めることを目的に行われました。

当日は、斑点米カメムシ類の発生状況や防除対策をはじめ、GNSSガイダンスによる自動操舵、高密度播種、直播栽培、初冬播き栽培など、省力化や安定生産につながる技術が紹介されました。質疑応答では多くの質問が挙がり、関心の高さがうかがえました。

参加者からは「今後の作付けを考えるうえで参考になった」といった声が聞かれ、有意義なフォーラムとなりました。



最新技術の説明を聞き入る米生産者

1月15日

## リンゴ剪定 ポイント学ぶ

りんご課は、五所川原市の園地で新春りんご剪定講習会を開きました。生産者約80人が参加し、剪定作業のポイントを確認しました。

講習会では、県りんご剪定士の相馬浩次さん（平川市）が講師を務め、樹勢を見極めた枝の整理方法や、花芽を意識した剪定などを実施しました。

相馬さんは、剪定の基本を踏まえ、今後の栽培管理や作業工程を考慮しながら剪定。樹勢を見極めた枝の整理方法などを説明しました。

参加者は、相馬さんの実演を熱心に見学。枝を残した理由や切る位置の判断基準などを質問していました。



相馬さんによる剪定の実演を  
見学する生産者ら



12  
11

## 令和7年産りんごの入庫、 誠にありがとうございました

当JA役職員は、りんご部会と連携しながらこまめな園地巡回と並行し、各地区、支店において、令和7年産りんごの予約相談会や特色を活かした各種イベントの開催、新規出荷者特典や予約増量特典を設けるなどしながら当JAへの入庫を呼びかけてきました。

12月後半より、各種特典の出荷者を対象とした抽選会の開催や当選者へのプレゼントの受け渡しを行いました。

令和7年産りんごを当JAに入庫していただき、誠にありがとうございました。役職員一同、最大限の販売努力で高価格精算に努めてまいります。



12/1  
1/8-15

**改植・新植事業相談会開催**

東地区営農係は、令和9年の春に改植または新植を検討している組合員を対象に、改植事業相談会を弘前東支店で開催し、申請スケジュールや申請に必要な書類、肥料や堆肥、苗木の注文などについて説明しました。

参加者からは、今後有望なりんごの品種や土壌改良に有効な肥料や堆肥などについての質問があり、職員は個別に相談に応じました。同地区営農係の三上係長は「近年、りんご生産の基盤となる苗木や農薬などの生産資材の供給が逼迫する場面が増えた。産地が生産量を維持していくうえで地域全体の課題と捉え、これまで以上に準備作業をしつかり進めてほしい」と話しました。



12  
24

## 座学による個別剪定講習会開催

北地区営農係は、りんご樹の生理生態を理解し、樹を健全に生長させ高品質なりんごを生産することを目的に、座学剪定講習会を個別に対応しています。

抑えておくべき部位の名称や、品種による枝の伸び方の違い（頂部優勢性の強さの違い）を考慮した剪定方法などを、枝を用いながら説明しました。

講師を務めた同地区営農係の神係長は「樹体に対する気象的なストレスを直接緩和することは難しいが、樹体へのストレスを軽減する栽培管理をすることで障害の発生を減らすことは可能。今後一層厳しくなりうる環境変化にも対応できるように、基本技術の徹底を図っていきたい」と話しました。



名古屋市より感謝状贈呈

12月12日、JA相馬村本所において名古屋市から感謝状の贈呈が行われました。

この感謝状は名古屋市中央卸売市場に対し、長年にわたり高品質な青果物を安定的に出荷し続け、名古屋市民の食生活の安定と向上に尽力したことに対して、名古屋市から贈られました。

当日は、名古屋市中央市場の後藤浩一場長らがJAを訪れ、大場組合長に感謝の意を表し、感謝状と記念品を手渡しました。

大場組合長は「感謝状を頂いたのは非常にありがたい。今後もし安定した出荷を心掛けていきたい」と述べました。



より一層の貢献に努めていきます

早生・中生種精算報告会

12月20日、本所と相馬ふれあい館にて早生・中生種精算報告会が開催されました。始めに大場組合長から「今年は大雪から始まり、7月の干ばつ、9月の強風被害に加え、鳥獣被害もありましたが、皆さんからお預かりしたリンゴを精一杯売って晩生種にもいい報告が出来るんじゃないかと」挨拶があり、三上販売部長からは「今年是小玉傾向で特にきおうが50玉クラスのものも多く、トキについては、50玉以下のリンゴが3割くらいに見られた」と説明しました。東京青果㈱の渡邊審議役から、市場情勢について報告があり、「系統共販でサンツがるの省力化の入庫を県下でも先駆けて行い、省力化しても食味のいいものを生産できるとがJAの強みです。一生懸命売っていただきますので是非頑張ってください」の底力を見せてほしい」とエールをもらいました。



市場情勢を熱く語って頂きました。

女性部スリザードフラワー&フラワーアレンジ講座

12月22日、JA女性部は中央公民館相馬館で仏用スリザードフラワー講座を実施しました。

スリザードフラワーは、生花を長期間楽しむために保存加工されているため、水やりの必要がなく、花を長く楽しむことができます。仏壇に飾るのにも適しています。

今回の講座に参加した竹内さんは、「短い時間で良い作品が作成できて楽しかったです。作ってみて癒されました」と感想を述べました。



ステキな作品が出来ました。



午後からは、正月用のフラワーアレンジ講座を行いました。製作中は、お互いの作品を見せ合いながら改善点を相談したり、講師にアドバイスをもらい手直ししたりしていました。出来上がった作品は多種多様で、同じ花や素材でも、少しずつ違った雰囲気の出上がりとなりました。

紙漣沢地区の成田照子さんは、「昨年は、用事があって参加出来なかった。今回参加出来てすごく楽しかった。また次回も是非参加したい」と話してくれました。参加者は出来あがった作品を満足そうに自宅へ持ち帰りました。

## 初心者りんご剪定講座



みなみ地区りんご栽培指導協力は2月1日、平賀支店管内と田舎館支店管内で「初心者りんご剪定講座」を実施しました。

同日は、協力員14人が受講者9人の園地で講座を行い、協力員は枝の性質や成長させる枝、切り落とす枝など説明しながら剪定作業を実演。また、実際に剪定作業を行う実技指導もあり、道具を使う時のコツなどを説明しました。



道具の実技指導を受ける受講者

## 各地区りんご剪定会開催



J A管内では1月上旬から、各地区でりんごの剪定作業の講習会が開かれました。

剪定は、主に不要な枝をはさみやのこぎりで切り落とす作業で、収穫量や品質を左右する重要な作業です。講習会には各地区のりんご生産者が参加し、作業の手順やポイント、注意点などを学びました。



平川市唐竹りんご部会  
剪定会(1月13日)



板柳町りんご剪定会  
(1月26日)

## 営農・生活指導員成果発表会



営農課は1月30日、本店で「令和7年度営農・生活指導員成果発表会」を開きました。

今年は指導員4人が発表し、審査の結果「もの即売会の問題解決策が当J Aの利益に与える影響」を発表した黒石グリーンセンターの福士晴也主任が最優秀賞に選ばれました。

最優秀賞に選ばれた福士主任は、2月にJ A全農あおもりが開く「令和7年度J A営農指導員研修大会」で、当J Aの代表として発表します。



最優秀賞に選ばれた福士主任の発表

## りんごのトップセールスを実施



平川市と当J Aは2月6日、東京都の東京青果で「津軽みらい産りんごトップセールス」を行いました。

同日は平川市の工藤貴弘市長と奈良寧組合長が卸売業者に向けて、津軽みらい産りんごの特徴や魅力をPRしました。また、卸売業者100人に対してりんご(サンふじ・王林)の配布も行いました。



卸売業者にりんごを配布する工藤市長と奈良組合長

1/26



## 堆肥供給増へ分析推進

当JAは持続可能な循環型農業の実現を目指し、発光分光分析装置(ICP)を使った堆肥分析の推進を進めています。堆肥の熟度や肥料成分量を明確にすることで、経験に基づく勘やイメージ頼みから転換。耕種農家の土づくりを、これまで以上に後押ししていく計画です。

土壌分析装置を活用し、堆肥で補われる肥料成分を可視化。畜産農家の堆肥を供給しやすくするメリットがあり、耕種農家にとっては化学肥料の使用量やコストの低減が期待されます。

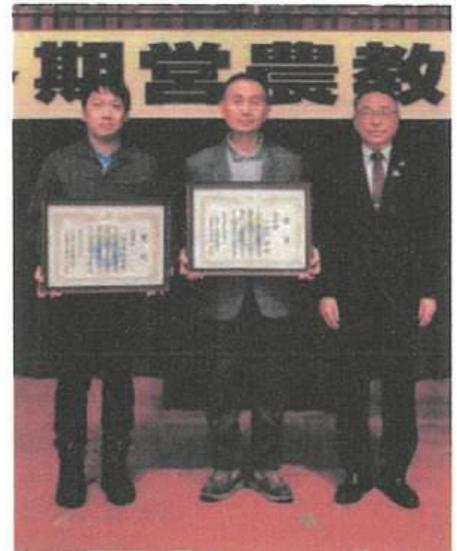
堆肥利用の拡大に向けて、堆肥品評会も開いています。今年度は管内の農家から堆肥9点が出品され、①汚物感②悪臭③散布の難易度④ハンドリング⑤発芽・発根の良否の5項目で品質や実用性を評価しました。

品評会の成績は次のとおりです。

最優秀賞▷大久保利美(三本木)

優秀賞▷村館強(藤坂)

—敬称略



▲品評会で受賞した(左)から大久保さん(代理)、村館さんと畠山組合長(土づくり講習会で)

1/6



## リンゴの良品質安定生産へ

果樹振興会は、三本木事業所管内の上明戸睦人さんのリンゴ園で剪定講習会を開きました。生産農家ら30人が集まり、リンゴの良品質・安定生産に向けて剪定技術を磨きました。

JA管内の主力品種は「ふじ」で、甘く食味が良いと評判です。直売所「かだあ〜れ」での販売や贈答用、加工品などでも販売され人気が高いです。

講習会では青森県りんご剪定師である大竹光男振興会長が剪定時のポイントについて解説。「年月を重ねた時の枝の伸び、隣の木との兼ね合い、日の当たり具合など色々な角度から見て剪定することが大切」と呼び掛けていました。



▲生産者にポイントを説明する大竹会長

1/24



## 日本の農家はまさに精悦 誇りと自信をもって

東京大学大学院特任教授の鈴木宣弘氏を招いて「地域農業を考える講演会」を開き、農家やJA職員、地域住民ら250人が集まりました。今回のテーマは「農政の転換点〜JAが果たすべき役割〜」と題して、食料安全保障のポイントやみどりの食料システム戦略の活用、協同組合の本質などについて紐解きました。

鈴木教授は地域の種を守り、循環的に農と食を支えることが食料安全保障であると強調。最後には、「世界一保護・支援がないなかで、世界10位の農業生産を達成している日本の農家はまさに精悦。誇りと自信をもって家族と国民を守る決意を新たにしよう」と参加者を鼓舞しました。



▲食料安全保障の重要性を訴える鈴木教授

## 1/5 初荷出立式 気を付けていってらっしゃい!

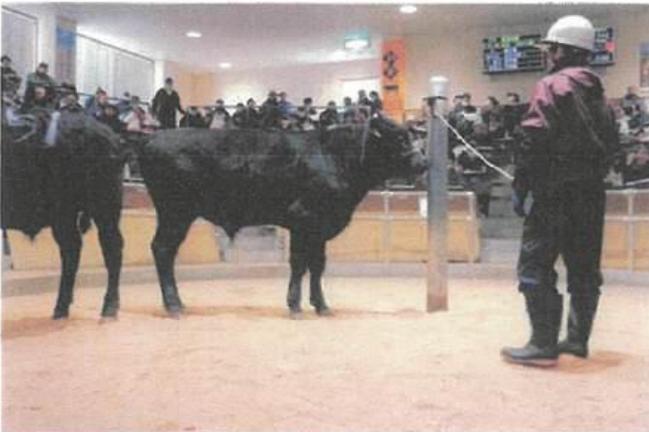


初荷の旗を掲げたトラックを見送る役職員ら

J A ゆうき青森は、東北町の営農センターで初荷式を開いた。J A 役職員や運送会社関係者など約40人が見守る中、管内のナガイモやニンニクなどを載せたトラック3台が「初荷」の旗を掲げ関東方面へ出発した。

天間一博代表理事組合長は「昨年大きな事故が1度もなかったと聞いている。今年も安全運転を一番に心がけ、生産者の思いが詰まった農産物を全国へ届けてほしい」とあいさつ。運送会社を代表して、甲地運送の甲地義昭代表取締役が「積み荷をわが子のように扱い、いかなる条件下でも安全運転を心がける」と宣言した。

## 1/9 子牛初セリ 好調なスタート



初セリの様子

七戸町の青森県家畜市場で子牛の初競りが行われた。去勢牛286頭、雌牛170頭の取引が成立した。1頭当たりの平均価格は75万6047円。前年より21万9071円上回る価格となり、好調なスタートとなった。繁殖農家の高齢化による離農や、生産コストの高止まりによる上場数の減少などが要因とみられる。

この日は県内外から約70人の購買者が来場。最高値は去勢牛108万3500円、雌牛90万3100円、平均価格は去勢牛79万6308円、雌牛68万8315円だった。

8日に開催したスモール牛の初セリでは黒毛和種、ホルスタイン種、乳用交雑種合わせて126頭が上場。乳用交雑種の平均価格は雄牛19万106円、雌牛16万1415円だった。

## 1/16 J A ・子会社役職員と語る会 女性部



意見を交わした女性部役員とJ A ・子会社役職員ら

J A ゆうき青森女性部は、本所会議室で「J A ・子会社役職員と語る会」を開催した。松山真由美女性部長ら女性部役員13名と天間一博組合長ら役職員・子会社役員が、J A ・子会社事業に関する18事項について意見を交わした。

会の冒頭、天間組合長は「女性目線の意見を聞きながら事業を進めていくことが大切だと思っている。忌憚のない意見を頂戴したい」とあいさつ。

女性部からは、Aコープの商品充実を求める声やらくのう営農センターのエアコン修理、野辺地支店のトイレ更新などJ A 施設に対する要望の声が挙げられた。



## 育てた藍で藍染めに挑戦

女性部三沢支部は、1月14日に藍染め教室を開きました。女性部三沢支部では、2021年より藍染め教室を開き、今回の藍染め教室には、同部員11人が参加しました。

大鍋で藍の葉を煮出して濾す作業を3回繰り返して、色素を抽出した液体に、各々が持ってきた衣類やタオルを浸して取り出すと、初めは黄緑色だったものが空気に触れ酸化するにつれて徐々に鮮やかな藍色に変わっていき、色の変化や仕上がりに参加者はとても楽しそうな様子でした。



## パッチワーク教室開催

女性部三沢支部で1月8日、15日、22日に、六戸支部では1月7日、14日、21日に講師として高坂房子さんを招き、パッチワーク教室を開きました。

今回の教室は、本店では久しぶりの開催となり、参加者はそれぞれ3種類のデザインから選びバッグを仕上げていきました。パッチワークは小さな布切れを縫い合わせて作る手芸で色や柄、大きさの異なる布を使うことで個性的なデザインを楽しむことができます。

完成したバッグは、綺麗な仕上がりで、部員からは「初めてだったので難しかったが、無事に完成してよかった」と感想があり、とても満足した様子でした。



本店



支店



## あみもの教室開催

女性部六戸支部は新年初めの教室として、1月の6日、13日、20日の3日間にわたり「あみもの教室」を開きました。

講師として、プチハウス工房の関川幸子さんを招き、講師からは「今年は60年に一度巡ってくる丙午の年です。皆さんにとって物事が上手くいく飛躍の年となればと思います。」とあいさつがありました。各自毛糸を持ち寄りチュニックや帽子作りに挑戦しました。

関川講師は編み方のコツや、作品を美しく仕上げるためのポイントを丁寧に指導。作業中は、部員同士和やかに会話を交わしながらも、それぞれ真剣な表情で丁寧に作業を進めていました。



蟹座  
6/22~7/22

【全体運】外野がうるさそうですが、それもあなたを思っていること。広い気持ちで受け止めて。運勢は下旬から大きく上昇。  
【健康運】無理はしないで体力を温存して。しょうが湯も吉。  
【幸運の食べ物】レンコン

双子座  
5/21~6/21

【全体運】流れが変わります。長い目で見て判断していきましょう。最初は大変でも目的にかなったものを選択して開運。  
【健康運】ウインタースポーツを楽しんで。筋トレも吉。  
【幸運の食べ物】フキのとう

## プロアイスホッケーチーム 「東北フリーブレイズ」のホームゲームで 農協事業をPR

JAは、八戸市を拠点に地域で活躍するプロアイスホッケーチーム「東北フリーブレイズ」と2025-2026シーズンサポーター契約を締結しています。

第6次中期3カ年計画の「地域イベント参加による積極的な地域貢献活動」の一環。地域住民および全国の方々へ広くJA八戸をアピールし、JAの理解促進とJA事業利用拡大、また地域活性化への貢献を目指しています。



▲ 農協事業をPRする職員

1月24日、試合会場である八戸市のFLAT HACHINOHEでJA八戸のブースを出展しました。来場者を対象に、各事業



▲ アンケートに回答する来場者

のPRチラシを配布したほか、今後のサービス向上の参考とするためアンケートを実施。回答いただいた方へ、ながいもやリンゴなどをプレゼントしました。アンケートには「お得なキャンペーン情報を知りたい」など寄せられ、JAに興味を持った様子でした。

参加した職員は「普段、JA八戸のイベントへ来場する層とは違う、子育て世代や若い世代へJA八戸のPR活動を行うことができました」と話しました。

## 令和7年産ながいもコンテスト

ながいも専門部は12月25日、八戸プラザホテルプラザアーバンホールで令和7年産ながいもコンテストを開催し、生産者や関係者30人が参加しました。

中里光朋専門部長は「天候不順により折れやすくはありますが、例年よりも品質が良い状況です。高齢化により部会員数も減少し、農協への出荷が年々減少傾向にあるなかで、健康に気をつけて、出荷をお願いします」とあいさつしました。さらに、村山一星指導員が肥料・農薬の試験結果報告を行ったほか、今年の天候における生育状況を説明しました。さらに、上野健太郎販売担当は令和6年産の販売実績や出荷規格の簡素化を行っていくことを報告しました。

日頃の栽培技術を競うコンテストでは、生産者が3本ずつ出品。参加者全員がながいもの形状や品質の審査投票を行いました。投票の結果、若宮達雄さんが第1位に



▲ あいさつをする中里専門部長

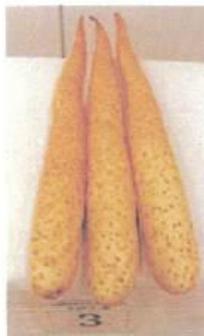


▲ 審査の様子

輝きました。さらに、特大賞は4.140gの平霞満さん(五戸地区)に贈られました。

受賞結果については以下のとおりです。(敬称略)

- 第1位 若宮 達雄(八戸地区)
- 第2位 類家 友也(五戸地区)
- 第3位 木村 蝶子(五戸地区)



▲ 受賞した若宮さんのながいも

1/22



## 剪定技術向上へ



📍 のこぎりを使用して剪定技術を教える松山聡さん

当JAでは毎年1月～2月の間に、りんごの剪定講習会を行っています。1月22日には、つがる市の園地で講習会を行い、生産者36人が集まりました。

この日の講師は、青森県りんご剪定士の松山聡さんで、のこぎりを使用して実演しました。枝が混みあっている場所を確認し、どの枝を残してどの枝を切るのかを説明しながら、手順を丁寧に教えました。

2/2



## 葉とらずりんごの生産者アンケート集計結果を発表



📍 2年間の調査を発表する弘大生

弘大生とJA職員で構成される未来創造研究所は、約2年間にわたる活動を終え、2月2日に成果を発表しました。

昨年8月に実施した、「葉とらずりんご」生産者アンケートでは、作業時間短縮により、労働力不足下でも栽培しやすく、栽培面積を維持・拡大したいとの前向きな意見が多数を占めました。また、認知度向上へ向けて、消費宣伝の強化や試食会開催なども提案しました。

1/30



## もちつき楽しく ぺったんぺったん



📍 昔ながらのきねとうすを使用し、もちつきを行う児童

1月30日、鶴田小学校で6年生86人がもちつき大会を行いました。昨年6月にもち米「あかりもち」を田植えし、9月には昔ながらの脱穀体験も行いました。

今回はそのもち米を使用し、きねとうすを使ってもちつきをしました。青年部や女性部もサポートしながら「よいしょー！」の掛け声に合わせて、児童たちは勢いよくきねを振りました。出来たてのおもちは、きなこやあんこ、のりをつけておいしく頂きました。

1月～3月



## 春の出荷に向け 育苗管理進む



📍 播種機を使用しブロッコリーの種まきを行う様子



📍 5cm程に成長したねぎの苗

管内の育苗ハウスでは1月下旬から、ねぎ、トマト、ブロッコリーの播種が次々と始まりました。苗は約50日間育てられた後、生産者の畑へ定植されます。

定植間近には、苗を強くするため、ハウスの換気や置き場所を工夫して外気の寒さに当て、徐々に外の環境に慣らしていきます。こうした管理を経て、生産者へ手渡されています。

2月20日

## 組織力強化へ

役員で組織力強化プログラム研修会を行いました。エンゲージメント調査の結果を踏まえ、経営理念やビジョンの再確認、組織の現状分析、課題抽出を段階的に進めました。研修の成果は、今年7月から始まる中期経営3カ年計画に反映し、組織の活性化につなげていきます。

研修は昨年11月から2月までの4回、外部コンサルタントを招いて行いました。1、2回目は常勤役員と各所属長が参加して組織の方向性を共有。3、4回目は参加を希望した職員約40人がグループワーク形式で活性化策を協議しました。



より良いJAづくりに向け、  
真剣に議論する役員

グループワークでは、課内で通常と異なる業務を体験する「チャレンジ期間」の創設や、週休2日・家族休暇の導入などが提案され、働きやすさと人材育成の両立を図り、職員一人ひとりの力を高めることで、より良いサービスを提供できる体制づくりを進める方向性を確認しました。

2月20日には、研修参加者が再び集まり、次期中期経営3カ年計画のビジョンについて意見を交わしました。今回の研修で得られた学びや気づきを今後の取り組みに生かし、地域に根ざしたJAづくりを進めてまいります。

2月24日

## キュウリ販売

### 実績を報告

野菜振興協議会は、本店でキュウリの販売報告会を開きました。2025年産の出荷数量は、前年比100%の1万5737箱（1箱5キ）、販売額は3259万円（前年比102%）となり、前年並みの数量を確保しながら販売額は上回る結果となりました。

市場からは品質面で高い評価を受けており「さらに量があってもよい」との声もありました。今後は高温対策の徹底を図るとともに、市場との連携をさらに強め、需要に応えられる生産体制の構築を目指すことを共有しました。



販売実績をもとに意見を交わす出席者



1  
22

## 中央地区商品研修会開催

中央地区は、当JAが取り扱っている購買品の性能を広く周知するため、藤崎支店会議室で商品研修会を開催しました。



研修会では、(有)丸源鋸工場、田中産業(株)、JA全農Aコープ(株)の3社が、鋸の特徴や雨具の手入れ方法、長靴の選び方など各社商品について説明しました。説明を聞いた参加者は、それぞれの商品を試着するなどしながらサイズ感や使い心地を確かめ、お目当ての商品を購入しました。

スポンジゴム製の長靴を試し履きした参加者は「軽くて動きやすい。業者の方から性能を聞ける機会が無いので参加して良かった」と話しました。

研修後は、豪華賞品が当たる3社協賛の抽選会を実施したほか、同地区より日頃の感謝の気持ちを込めて温かい蕎麦が振る舞われました。

1  
21

## 弘前北地区りんご部会協議会視察研修開催

弘前北地区りんご部会協議会の藤田満会長は、河東地区りんご施設の視察研修会を開催しました。

施設係の戸係長は、製品が保管されている冷蔵庫についてや入庫されたりんごがどのような手順で選果されているのかなど、会員の質問に答えながら施設内を案内しました。



視察後は、販売課の出雲課長が、令和7年産りんごの販売状況や品種別の出荷時期などを報告し、消費拡大、認知度向上のためにやっているさまざまな取り組み内容についても説明しました。



1  
15

## 「知っておきたいお金の話セミナー」開催

金融課は、資産形成について理解を深めてもらうと、組合員を対象に「知っておきたいお金の話セミナー」を開催しました。

当JAの資産形成専任アドバイザーの秋吉哲氏が講師を務め、現代のお金をとりまく環境や資産形成の基本的な考え方を詳しく説明しました。また、投資信託で得た利益が非課税となる国の税制優遇制度である「NISA」についても取り上げ、制度の特徴や仕組み、活用する際のポイントなどを紹介しました。

参加した組合員のひとは「例え話を取り入れながら説明してくれたので、難しい用語も理解しやすかった。今後、お金の備えとして資産形成について考えていこうと思った」と話しました。



青色申告会研修会



1月27日、本所大会議室において青色申告会研修会が開催されました。始めに、清江尚樹会長より「寒波の中、お集まりいただきありがとうございます。皆さんこれから確定申告を迎えると思います。本日の研修会を参考にして進めていただきたいと思います」と挨拶をしました。研修会では、弘前財務署個人課税第一部門の尾崎統括官より「令和7年度税制改正及び確定申告の注意点」について講演がありました。

参加者は、講師の説明を真剣に聞き、税制改革についてや節税対策について分かりやすく解説いただきました。



税制のポイントの再確認を行いました

ライスロマンクラブ

総会開催



1月28日、第20回ライスロマンクラブの通常総会が本所大会議室で行われました。

花田勇人組合長は、「昨年は約30年ぶりの高値で、米農家もようやく報われたと感じています。今回の議題で賦課金の値上げについての議題もありますので忌憚のない意見をお聞かせください」と述べました。

本人出席、委任状合わせて66名が出席し原案は全て可決された。



会員の見守るなか総会はスムーズに進められた

令和8年度

冬期講座開催



1月29日から2日間JA相馬村冬期講座が開催されました。

1日目には、五所地区の工藤丈二さんの園地でリンゴ剪定会が行われました。講師として田澤敬さんが今年から勤め、生産者に対して剪定の重要なポイントを説明しました。「根を動かすことを心がけ、今後の作業工程を考慮して切るこゝが重要です。樹勢を観察し、素質の良いものを考慮して剪定を行う」と述べ、実演を行いました。田澤さんの剪定を自宅に帰っても復習したいと、携帯で動画を撮影しながら熱心に話を聞く参加者もいました。



剪定のコツを伝える田澤さん

2日目は、本所大会議室にて座学が行われ、午前は日産化学(株)の谷口拓夢氏が令和7年度の米の振り返りを行い、温暖化に対応した水稲栽培や令和8年度から使用される除草剤の紹介とその使用方法について説明し、青森県りんご共防連の顧問である塩谷彰氏は「地球温暖化がリンゴ生産に及ぼす影響」というテーマで、過去3年間の高温干ばつについて詳細を分析しました。午後には農業振興課より、令和8年度のりんご防除暦についてや販売課はりんごの在庫区分の変更についての解説も行いました。弘前市の鳥獣対策係の担当者より「侵入防止電気柵整備事業」について説明をし、これから整備するための経費補助についても詳しく説明がありました。



防除暦や入庫区分の変更点を学ぶ参加者

## 女性部各支部で通常総会



女性部（青山朝子部長）は2月下旬から3月上旬、各支部の通常総会を開きました。

通常総会では、監査報告や議案の審議、スローガンの確認をしました。



黒石支部(3月2日)



みなみ支部(3月3日)

## 田舎館小学校豆腐作り教室



女性部みなみ支部田舎館班の加工部会（葛西由賀子部会長）は2月上旬、田舎館村立田舎館小学校で豆腐作り教室を開きました。子どもたちに地元の農産物のおいしさを知ってもらうため行い、1年・5年生の児童が豆腐作りを体験しました。

女性部員が講師を務め、児童らは大豆から豆腐ができるまでの過程を学び、みんなで協力しながら豆腐を完成させ、各自大事に持ち帰りました。



豆腐作りを体験する児童

## 強盗を想定した防犯訓練



田舎館支店は3月5日、金融店舗を狙った強盗を想定した防犯訓練を行いました。

訓練は黒石警察署生活安全課の協力のもとで行い、警察官2人が犯人役を演じ、刃物を手にして「金を出せ」と職員を脅迫。職員は強盗を刺激しないよう、要求に従いながら捜査の手掛かりとなる犯人の服装などの特徴を押さえました。また、さすまたを実際に使用し、強盗を取り押さえるポイントを確認しました。



さすまたの使い方を学ぶ職員

## 大口米出荷者研修会



米穀部は2月27日、秋田県鹿角市のホテル鹿角で米出荷者研修会を開きました。研修会は、令和7年産米を1,000俵以上出荷した組合員を対象としており、今回で3回目の開催となります。

研修会では「Aと取引のある米卸売り業者である、株式会社神明（東京都）安藤米穀事業本部米穀次長を講師に迎え「直近の米穀情勢について」を題材に「令和のコメ不足問題」から「現在の在庫量・価格推移」について講演を行いました。



ホテル鹿角で開いた米出荷者研修会



▲きれいな花、どれにしよう!



▲手作りケーキはいかが?

2/6



## 冬の味「ごと」再注目

十和田市切田地区で、冬場の保存食として親しまれている郷土発酵食「ごと」作りが今年も始まっています。塩味と酸味が複雑に絡み、大豆のまろやかさやコク、麴の甘みが長年愛されてきました。直売所「かだあ〜れ」や道の駅では、「懐かしの味」としてリピーターが増えています。

発酵食が好きな俳優の小雪さんが未来に残したい郷土のレシピを学ぶNHKの番組「小雪と発酵おばあちゃん」で取り上げられ、書籍にもまとめられたことで、近年再び注目されています。

10年ほど前に母のトシさんから味を引き継いだ山田浩代さんは、夫の利昭さんと郷土の味を守っています。大豆は自家栽培で、麴も手づくり。「懐かしい、おいしいという声が励み。一人でも多くの人に伝えたい」と仕込みに力を入れていました。

※4月頃まで「かだあ〜れ」で販売しています。



▲ごと作りに励む浩代さん

2/7



## 青年部つきたて餅が大人気

JA青年部七戸支部は、七戸町商店街のイベント「まける日」でつきたての餅を販売しました。支店敷地内でもち米を洗い蒸かして、臼と杵で餅をついた後、丁寧に伸ばして切ったらパック詰め。温かいうちに売り場に運び、来訪者に販売しました。

店頭ではきな粉をまぶした餅を無料で配布。来場者は甘みがありもちりとした食感を堪能していました。

餅を購入した町内在住の女性は「青年部の餅はおいしくて、毎年この日を楽しみにしている。お友達のものと一緒に買って、ゆっくりと味わいたい」と笑顔を見せていました。



▲餅振る舞いに行列

## 1/27 令和7年度青年部協議会総会



あいさつする岡山寿治会長

ゆうき青森農協青年部協議会は東北町北農村環境改善センターで令和7年度通常総会を開催し、令和8年度青年部会長をとうほく支部の乙部大作さんに決定した。

総会では議長をとうほく地区の小塚宏幸さんが務め、令和7年度の事業報告及び収支決算、令和8年度事業計画案及び収支予算案など、3議案が原案通り承認された。

令和8年度の役員は以下のとおり。(敬称略)

役職	支部	氏名	役職	支部	氏名
会長	とうほく	乙部 大作	理事	六ヶ所	相内 奨
副会長	とうほく	吹越 伸也	理事	野辺地	毛利 宏幸
理事	天間林	佐藤 和文	理事	野辺地	鳴海 拓哉
理事	天間林	高松 元気	監事	とうほく	鎌本 貴幸
理事	六ヶ所	石久保 勇人	監事	とうほく	岡山 寿治

## 2/5 令和7年度女性部通常総会開催



あいさつする松山部長

ゆうき青森農協女性部は七戸町中央公民館で令和7年度通常総会を開催した。

議長を天間林支部の福村由起江さんが務め、令和7年度の事業報告及び収支決算、令和8年度事業計画案及び収支予算案など、3議案が原案通り承認された。

会の冒頭、松山真由美部長は「女性部員の高齢化による部員減少という深刻な問題に直面している。柔軟な思考と多様性への対応力、また組織の活性化を図りながら女性部活動を今以上に積極的に行い、次代を担う若い世代にも女性部の魅力を広めていく」とあいさつを述べた。

通常総会後は、七戸警察署刑事生活安全課の工藤英尚課長が「特殊詐欺の被害防止について」をテーマに講演を行い、詐欺被害にあわないためのポイントを学んだ。

## 2/16 フルーツサンド作り 女性部らくのう・野辺地支部



出来上がったフルーツサンドに歓声を上げる部員ら

ゆうき青森農協女性部のらくのう支部と野辺地支部は、部員の親睦を図ろうと料理教室を開催した。部員20人が参加し、キウイとみかんのフルーツサンド作りなどを楽しんだ。

講師は、津軽地域で料理教室を開催している高谷香織さんが務めた。部員らは協力しながら生クリームを泡立てた後、カットした断面を予想しながらフルーツをサンド。冷凍庫で20分ほど冷やしカットすると美しい断面が現れ、「かわいい!」と歓声が挙がった。部員らは「簡単で見栄えがいいので自宅でも作りたい」と笑顔を見せた。

料理教室の前には、日本原燃㈱の職員から身近にある放射線などについて学んだ。



## 郷土料理のすいとんを振る舞う

女性部三沢支部は、2月1日に青の煌めきあおり国スポ冬季大会で選手団や一般観覧者らに郷土料理のすいとんを振る舞いました。会場となった三沢アイスアリーナでは提供開始と共に長蛇の列ができ、用意した約300食はすぐに完売しました。

今回提供したすいとんは地元特産物であるナガイモをすいとんに練りこんだ女性部特製のレシピで、ゴボウやニンジンもふんだんに使った具沢山の一杯となりました。

来場者からは「寒いので体があたたまってありがたい。」「ナガイモやゴボウが特産物であることを初めて知った。」といった声があがりました。県外の来場者にも三沢市の特産物である長いもを知ってもらえる良い機会となりました。



## PPバンドを使ってバッグ作成

女性部六戸支部は、1月15日から1月27日の期間で5日間、PPバンド教室を開き、同女性部員合わせて8人が参加しました。

当日は、講師として、女性部三沢支部の立花利江さんを招き、PPバンドを使ったバッグ作りに挑戦しました。女性部員はそれぞれ作りたいバッグのサイズやデザインをイメージしながら、立花講師のアドバイスをを受けつつ、PPバンドを慎重にカット。切り出したバンドを画びょうで固定しながら組み立てる作業を行いました。

完成したバッグは、色とりどりのPPバンドが織りなす美しい仕上がりで、部員からは、「無事に完成してよかった」と感想があり、とても満足した様子でした。



## 育てた藍で藍染めに挑戦

女性部六戸支部は、1月29日に藍染め教室を開いた。今年で3回目となる藍染め教室には、同部員11人が参加し、部員が育てた藍を9月に収穫し、茎から1枚1枚手作業で摘み、乾燥葉に仕上げました。

大鍋で藍の葉を煮出して濾す作業を3回繰り返し、色素を抽出した液体に、各々が持ってきたストールやチュニックを浸して取り出すと、初めは黄緑色だったものが空気に触れ酸化するにつれて徐々に鮮やかな藍色に変わっていき、色の変化や仕上がりに参加者は興味を示しました。

参加者からは「今年初めての参加だったが、愛着が湧く作品に仕上がったのでとてもうれしい」と楽しんだ様子でした。



乙女座  
8/23~9/22

【全体運】運勢は吉凶混合。良いも悪いも入り乱れ忙しくなりそう。臨機応変に対応していきましょう。良い方に目を向けて○。  
【健康運】無理は禁物。過度な運動と食事を心がけて。  
【幸運の食べ物】タケノコ

獅子座  
7/23~8/22

【全体運】あれもこれもと思いがちですが時間は限られています。あらかじめ取捨選択を。下旬には勢いを取り戻し前進。  
【健康運】油断大敵。いつもの健康習慣をしっかりと継続。  
【幸運の食べ物】パセリ

## ピーマン新規作付者講習会



▲ 講習に耳を傾ける参加者

ピーマン専門部は2月2日、南部支店でピーマン新規作付者講習会を行い、新規作付希望者28人が参加しました。

J Aでは、他の作物に比べ栽培管理や収穫、調整が軽作業であるため、高齢者や女性、農業が初めての方でも取り組みやすい作物として推奨しています。

横浜植木株式会社の社員が講師となり、定植から整枝方法などを説明しました。参加者は「株間は何センチが適切なのか」「追肥のタイミングや間隔は」など質問し、次年度の植付へ意欲を見せました。

八戸営農センターの田中彰主査は「4月から講習会を定期的開催していきます。また、栽培管理や追肥など不安なことがあれば気軽に各営農センターの職員へ相談してほしい」と呼びかけました。

## 桃 剪定講習会

桃専門部は2月16日、南部町の生産者園地で剪定講習会を開き、18人が参加しました。元農業普及振興室の久保隆さんを講師に招き、冬季の剪定のポイントを学びました。

長沼智一専門部長は「皆さん独自の剪定方法があるかと思えます。講習会を参考に、次年度の生産に向け、参考になる部分は取り入れ、品質のよい桃の生産に努めてください」とあいさつしました。

講師は剪定のポイントとして、①日光が十分に園地にあたる、②防除薬剤がしっかり散布される、③作業がしやすいことを挙げました。「園地全体を観察し、どう剪定を進めるか方針を定めていってほしい」と指導しました。



▲ 剪定のポイントを伝える講師

## 南部支店 年金友の会集い



▲ 集いを堪能した会員

南部支店は2月14日、バーデパークふくちで年金友の会集いを開き、会員43人が参加しました。

赤石順三会長は「皆さん、久しぶりに会う方も多と思います。交流を深め楽しんでいってください」とあいさつ。美味しい料理を堪能したほか、カラオケで自慢の歌声を披露し、さらに踊りもあり、最後にはじゃんけん大会で盛り上がりました。

参加した会員は「支店の職員や久しぶりに会う方も多く、楽しく会話もできよかった」と話しました。



©みんなのよい食プロジェクト